

第3回 明大通り沿道協議会

次 第

令和2年7月15日(水) 10:00~11:30

千代田区役所 8階 第一委員会室

1. 開 会

2. 議 事

【報告事項】

- (1) 前回協議会の議事要旨(確認)
- (2) 第2回沿道協議会において確認が必要とされた事項(報告)
 - ・植樹柵について
 - ・交通量について
 - ・樹木について
 - ・その他(落葉対策・横断歩道の移設・バスベイ等)

【本日の検討内容】

- (1) 歩道拡幅による樹木の位置について

3. そ の 他

4. 閉 会

《配布資料》

- 資料1-1・・・第3回明大通り沿道協議会次第
- 資料1-2・・・ ” ” 席次表
- 資料2・・・第2回明大通り沿道協議会議事要旨
- 資料3・・・第2回沿道協議会において確認が必要とされた事項
- 資料4-1,2・・・植樹柵と横断防止柵の位置関係について
- 資料5・・・日大病院前の樹木設置について
- 資料6・・・落ち葉等による冠水対策について
- 資料7・・・駿河台道灌道付近の横断歩道設置位置について
- 資料8-1,2・・・現況のプラタナスを生かした歩道拡幅整備検討結果について
- 資料9・・・駿河台下バス停の整備位置について

第3回 明大通り沿道協議会 席次表 R2.7.15(水)10:00~11:30 第1委員会室

	【アドバイザー】 神戸市芳樹風景 計画 取締役 大橋	【アドバイザー】 千葉大学 名誉教授 藤井	【座長】 法政大学 教授 福井	【アドバイザー】 千葉大学 大学院教授 池邊	
小川町三丁目 西町会 岩崎					駿河台西町会 石澤
(公財)佐々木研究所 常務理事 前田					駿河台西町会 町会長 坂内
日本大学病院 管財課長 山口					明治大学 総務部長 奥住
明治大学教授 大森					明治大学 総務課長 松尾
明治大学教授 野中					障害者共助会 星野
神田大喜靴店 ・神田在住 北城					千代田区 環境まちづくり部長 小川
	【事務局】 千代田区 道路公園課 中村		【事務局】 千代田区 道路公園課 内田		【事務局】 千代田区 道路公園課長 谷田部
【事務局】 千代田区 道路公園課 吉村	【事務局】 千代田区 道路公園課 寄田		【事務局】 千代田区 道路公園課 澤村		【コンサルタント】 ㈱高島テクノロジー センター 課長 玉川
	【事務局】 千代田区 道路公園課 本橋		【コンサルタント】 ㈱高島テクノロジー センター 犀川		【コンサルタント】 ㈱Tetor 山田

第 2 回明大通り沿道協議会 議事要旨

令和 2 年 2 月 18 日(火)10:00~11:30
千代田区役所 8 階第 2 委員会室

■配布資料による説明

- ・議事次第・席次・議事要旨(第 1 回明大通り沿道協議会)
- ・歩行者交通量について・現況計画重ね図及び埋設管横断図
- ・植樹樹楕図・現況平面図(ロング)

■質疑応答

(千葉大学大学院 藤井名誉教授)

●現在計画されている客土の範囲については、街路樹が樹冠を展開し根を張るために不十分なことが課題である。植樹ますの設置位置については、既設埋設管と競合しないよう上手く計画されているため、良好であると考え。

(千葉大学大学院 藤井名誉教授)

●B-B 断面(駿河台道灌道付近)の地下 2.10mに設置されている水道管と C-C 断面(明治大学リパティタワー付近)の埋設管を街路樹の根から保護するシート等を使用しているか確認したい。

(千代田区 石川主任)

⇒埋設管を保護する対策は、行っておりません。

(千葉大学大学院 藤井名誉教授)

●歩道の拡幅により現況の車道から植樹ますに計画していると読み取れるが、同時に車道の路盤を撤去する考えであるか確認したい。

(千代田区 石川主任)

⇒植樹ますを整備する箇所の路盤は、撤去する計画でいます。

(千葉大学大学院 藤井名誉教授)

●植樹ます周辺の路盤のみ撤去し、他の箇所は路盤が残るのか確認したい。

(千代田区 石川主任)

⇒歩道拡幅範囲の内、現況の車道に使用されている路盤は、歩道整備時に全て撤去する計画でいます。

(千葉大学大学院 藤井名誉教授)

●東京都の道路工事設計基準は、客土の範囲が不十分に設定しており、高木は基準の範囲を超えて根を張る。東京都の土壌は元々街路樹の生育にとって良好であり、根が張りやすかった。しかし、近年道路工事等により土壌が締め固められ、更に碎石が残されたままであるため、植木鉢のような状態である。よって路盤と路床の間を縫うように根が展開してしまうことが懸念される。

(意見者 大森氏)

●植樹ます構造図には、横断防止柵が記載されていないため、街路樹の幹との取り合いがよくわからないので示してほしい。

(千代田区 石川主任)

⇒植樹ます構造図には、横断防止柵を追記致します。

(意見者 北城氏)

●明大通り I 期に整備されている横断防止柵については、自分が調べた限りで植樹ます開口部の上に 5cm 程入るため、実際の位置を記載して欲しい。

バスベイ箇所の歩道幅員について、確認したい。

お茶の水橋付近(No.25 付近)については、資料に記載されている程歩道が拡幅されていないと感じるが、I 期整備で竣工したという考えで良いか確認したい。

(千代田区 石川主任)

⇒現況の歩道幅員は 4.0m 程あり、計画では現況の植樹帯から植樹ますに整備されるので、有効幅員が 3.8m 程度となり、現況より有効幅員が狭くなることはないよう計画しています。

お茶の水橋付近については、現在整備中であるお茶の水橋の工事に合わせ取り付くよう整備を行っております。

(意見者 北城氏)

●計画では、I 期工事に入っていたが、いつ頃完成形になるのか確認したい。

(千代田区 谷田部課長)

⇒お茶の水橋整備の完了に合わせて歩道の拡幅を行うため、令和 7 年頃を目標としている。

(意見者 三和氏)

●樹木保護板というものがどのようなものか教えて頂きたい。

(千代田区 石川主任)

⇒樹木保護板については、樹木の根回りを保護することに加え、透水性があるため街路樹の根に影響を与えないよう配慮しております。更に、歩道の有効幅員を確保する目的で樹木保護板を整備する計画としております。

(意見者 三和氏)

●私の住居周辺では、ツリーサークルが整備されており街路樹の根上りによって樹木保護板が押し上げられていることもあり補修が必要と思えるため、開口部の直径 60cm が適切な大きさであるか確認したい。

(千代田区 石川主任)

⇒植樹ますの直径 60cm の開口部については、樹種によって大きさが不適切な場合も考えられるので、今後協議会の中で検討していきたいと考えております。

(法政大学 福井教授)

●歩行者交通量については、12 時間全ての交通量から密度を割り出しているのか、ピーク時(1 時間)で割り出しているのか確認したい。

(千代田区 石川主任)

⇒歩行者密度については、ピーク時(1 時間)の密度を示している。

(法政大学 福井教授)

●ピーク時(1時間)の歩行者交通量は、明治大学の学生が大勢で歩道を利用するようなタイミングと認識して間違いがないでしょうか。

(千代田区 谷田部)

⇒ピーク時(1時間)の中でも瞬間的に多くの歩行者が歩道を利用する時があるものの、1時間当りの平均値を示しているため、実際より低く出ていると考えられます。

例えば、10分単位の歩行者数で密度を示すような対策を取ることで、より正確な歩行者密度を示せると考えております。

そのために、改めて歩行者交通量調査を行いたいと考えているが、明治大学が春季休業中であるため、4月以降に行い、より詳細にピーク時(1時間)の状況が分かるように示したい。

(法政大学 福井教授)

●歩行者交通量が多い時間帯について、併せて調べて頂きたいと思いますので、地元の皆様からいつ頃が多いか意見を伺いたい。

(小川町三丁目西町会 田近町会長)

⇒前回の協議会でも言いましたが、お茶の水から駿河台下まで 16:30 から 17:00 に掛けて明大通りを利用する時に明治大学リパティタワーや明治大学アカデミーコモンの前を学生が大勢歩いている。また、一時的なものではあるが 16:00 頃にバスを利用して受験生が多く歩道を利用している姿を目にする。

(意見者 大森氏)

⇒明治大学の4限が 17:00 であることから、歩行者交通量が多くなることが予想される。(意見者 大森氏)

●I期工事が終わってから、自転車が度を出して下ることが多くなってきたため、自転車の交通量も併せて計測して欲しい。

(千代田区 谷田部課長)

⇒自転車の交通量についても、併せて計測致します。

(法政大学 福井教授)

●街路樹の配置や具体的な検討事項に対する皆様のご意見等について、漏れがないよう実際に用意した明大通りII期区間の模型(1/50 スケール)を現地と想定して具体的にご意見を頂き、課題解決の材料としていきたいと考えております。

※模型を見ながら整備について挙げられた意見や課題を以下に示す。

(模型を囲んでの意見交換となり、発言者の特定ができなかった)

●日本大学病院付近に樹木が計画されていない理由を教えて欲しい。

⇒日本大学病院付近については、警視庁協議を行った際に、車両が出入りする時に視距が確保できないと回答を頂いたため、現況では街路樹が整備されているが、街路樹を整備する計画を行っていない。

●フランスの道路では、街路樹の幹を長く伸ばし、下枝を処理することで簡単に視距を確保することができ、交差点ですら高木が植えられている。
⇒街路樹の整備位置については、警察の見解を伺う必要があると考えられるため、場合によっては再協議をすることになるかと思う。

●落葉によって集水ますが塞がれてしまうところが何処であるか確認したい。
⇒小桜通りから御茶ノ水駅辺りで集水ますが塞がれることがあったが、明大通り I 期区間が整備されたことで改善され発生していない。
⇒駿河台下交差点付近で水たまりが発生することがあり、雨が多く降ると歩道にも水が入ってくることもある。

●近年では、ゲリラ豪雨の発生が多くなっていることによって被害があるか。

●沿道にビルがあることが原因なのか、玄関付近で落ち葉が溜まり渦を巻くように吹き上がることもある。

●駿河台道灌道付近の横断歩道は、坂道であり更に屈折していることから、明大通りを下る自動車が見えない付近に自動車が駐停車していたらとても危険に感じる。ポストがあり集配する車両があるので危険に思う。夜間に横断歩道を渡る人も当然いるので事故が起きやすく、過去に死亡事故が起こった場所でもある。何度も言いますが非常に危ない。

●バスが 1 時間に 1 本しか停車しないのに、わざわざバスペイを整備する理由がよくわからない。バス停位置は、現況の駿河台下交差点付近にある方が、歩行者が明治大学付近まで坂を上らずに済むので便利だと思う。

●バス停が駿河台下交差点付近に存在することは本来好ましくないと耳にしたことがある。

●駿河台交差点付近は、歩道幅員がとても狭いことに加えて、店舗の看板が張り出していて段差があり、とても歩きにくい。他の歩行者が避けてくれないので、傘がぶつかって歩きにくい。歩道の通行しやすさについては、検証を行って欲しい。

●歩道の拡幅によって、歩行者と自転車の混在が無いようにしてもらいたい。

●照明は、街路樹によって光が遮られない位置に計画してもらいたい。

●夏場は熱くて大変なため、街路樹を整備して日影が出来るようにして欲しい。

●歩道を車いすがすれ違うことが出来るよう幅員を広げて欲しいが、出来るだけ現況のまま整備をして頂きたい。

●現在の明大通りに思い入れのある方が多いことは分かるが、安全で安心して利用できる歩道空間を第一に整備して欲しい。

●現在の位置に街路樹を残しつつ歩道拡幅を行うことを検討したことがあるか気になる。

●現況の位置に街路樹を残したら、歩道拡幅の意味が無くなると思う。

●明大通り I 期区間の街路樹が撤去され問題となりましたが、我々が慣れ親しんでいる街路樹を切ることについて、陳情や明大 OB を含め現況の並木にこだわりや文化的価値があると思うので、その意見を集約した形で要望が上がった事実を評価して欲しい。

●一つ確認したいのですが、現況のプラタナスを残してほしいという意見は、明治大学の総意、もしくは明治大学の一員としての個人的な意見なのか伺いたい。
⇒地権者や沿道住民の意見を大事にしたいことも分かるが、個人的に恒常的に大学に通っているため、意見を尊重して欲しい。このような思いから、街路樹整備に対して意見や陳情書が出されている次第である。

●明治大学の総務部は第 1 回も第 2 回も出席していなかった。

●明治大学の総務部は、今まで大学の意見を代表する立場であったが、我々と話すことで教職員の意見も代表する必要があると理解を示すと思う。
そのため、明大通り I 期整備に対して、我々の意見が明治大学の代表として認識されて然るべきと思っている。

●明治大学に通っている方々が、明大通りに対して思い入れや思い出があることは分かるが、私は生まれてから 76 年住んでおり、他にも多くの方が同様に強い思い入れや思い出がある。
だが、思い出は思い出として心にしまい、次世代の人々が安全で安心して利用できる歩道空間を整備することを第一として欲しい。
⇒我々は思い入れや思い出は無く、緑陰等による実利を得ていることを認識して欲しい。

●問題は、プラタナスが日影を作って歩行者が快適に歩道が利用できるから、現況のプラタナスを残してほしいという考えで問題無いですか。
⇒今この場で問題無い、と約束することは出来ない。街路樹に対する意見を一つずつ検証して理解を得た段階で、明治大学に賛同してもらう形で意見を表明したいと思う。

●では、大学の総意である訳ではなくて、大学の一部の意見ということなのか、立場が曖昧なまま議論をされるとついていけないので、はっきりして欲しい。

●沿道の住民は、街路樹の恩恵を少なからず受けていることから、落ち葉を自主的に対処すべきと考える。明治大学は、清掃員を雇っているものの、学生を含め我々も街路樹の恩恵を受けているので落ち葉の処理に加わる必要があると考える。

●落ち葉が集水ますを塞ぐ箇所については、議論していても詳しくわからないので、実際に現地で落ち葉が多く溜まっているところを確認してはどうか。

●東京都道路工事設計基準に掲載されている植樹ますである T-1 型は、小さいので一回り大きいサイズがあるなら提示して頂きたい。植樹ますをコンクリートブロックで囲っていることが多くみられるが、他にステンレスの製品で整備するなども検討して頂きたい。

●街路樹については、次回以降調査を行なった上で見解を述べたいと考えています。

(法政大学 福井教授)

●今回頂いた意見や課題につきましては、次回以降議論を行い解決をしていきたいと思っております。傍聴席より、意見のある方が居ましたら、発言して頂きたい。

(傍聴者 清水氏)

●街路樹については、沿道の住民が大切に思うのであれば、現況のプラタナスを残すべきと考える。街路樹によって、町の雰囲気が変わり地域の風土を形成すると思っておりますので、沿道住民の思いを大事にして欲しい。

(千代田区 谷田部課長)

●第 3 回明大通り沿道協議会の日程は、令和 2 年 3 月下旬もしくは 4 月上旬に開催したいと考えております。

※第 3 回明大通り沿道協議会は、令和 2 年 4 月 8 日(水)に開催予定。

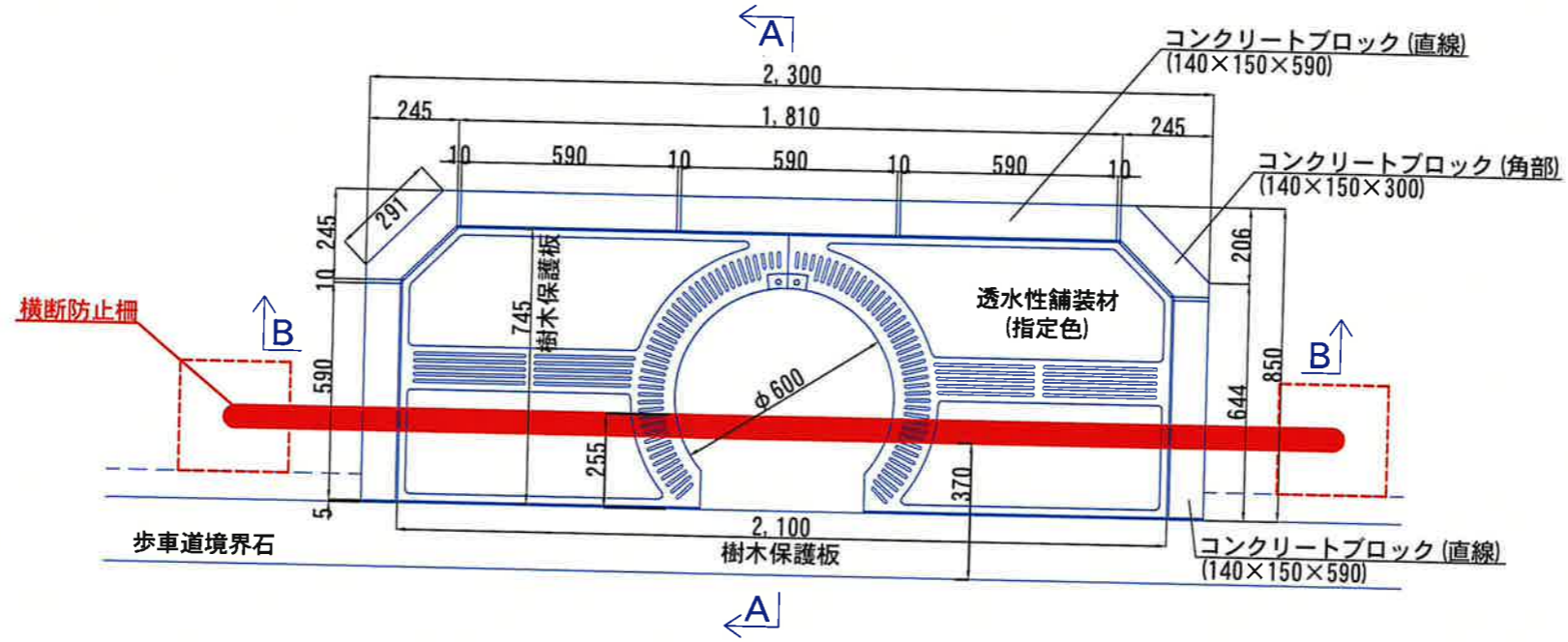
以上

第2回沿道協議会において確認が必要とされた事項

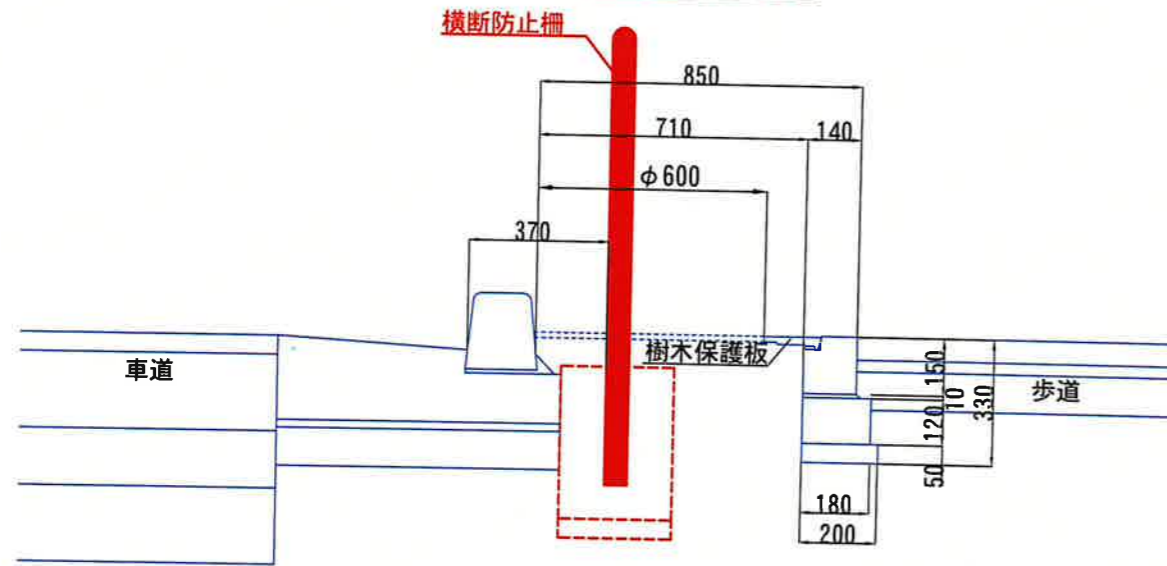
- ① 植樹樹と横断防止柵の関係図について(資料4-1)
- ② T-1 型より一回り大きなサイズがあるなら提示してもらいたい。また、植樹樹をステンレス製品で整備するなど検討するように(資料4-2)
- ③ 交通量調査は明治大学の学生が歩道利用しているタイミングで間違いないか
- ④ 日大病院前の樹木設置について(資料5)
- ⑤ 落ち葉による冠水対策について(資料6)
- ⑥ 駿河台道灌道付近の横断歩道が危険(交差点への信号設置等の要望)(資料7)
- ⑦ 現在の位置に街路樹を残しつつ歩道拡幅することを検討したか(歩道拡幅と現況街路樹の関係を示してほしい。)(資料8-1~8-2)
- ⑧ バス停整備の方向性について(資料9)
- ⑨ 歩道内を走行する歩道内の自転車への対応

植樹ます構造図
(明大通りⅠ期) S=1:20

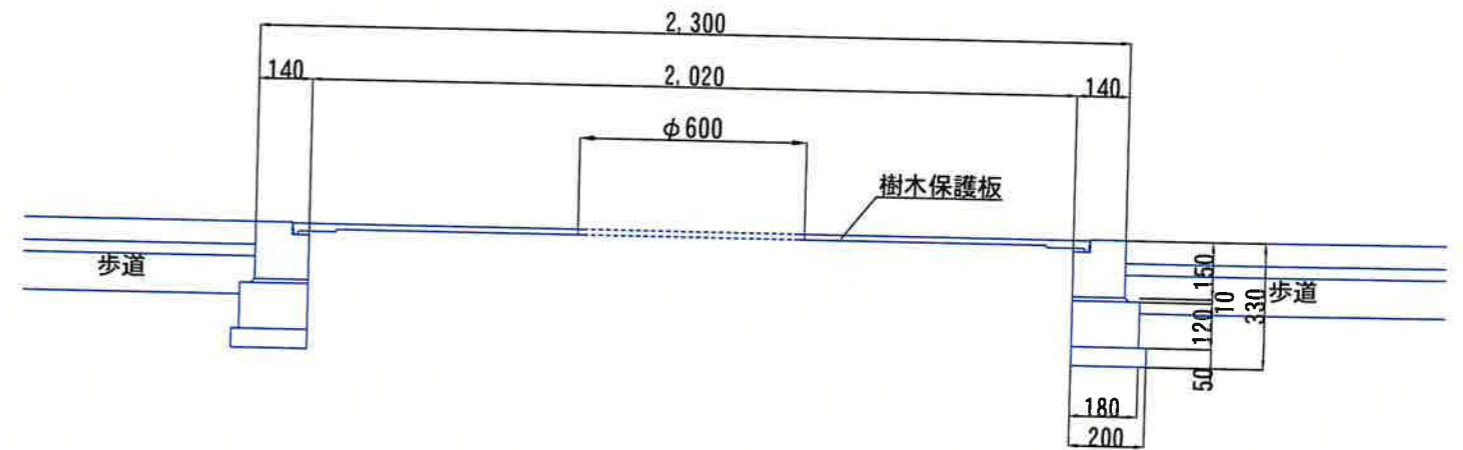
平面図



断面図 (A-A)

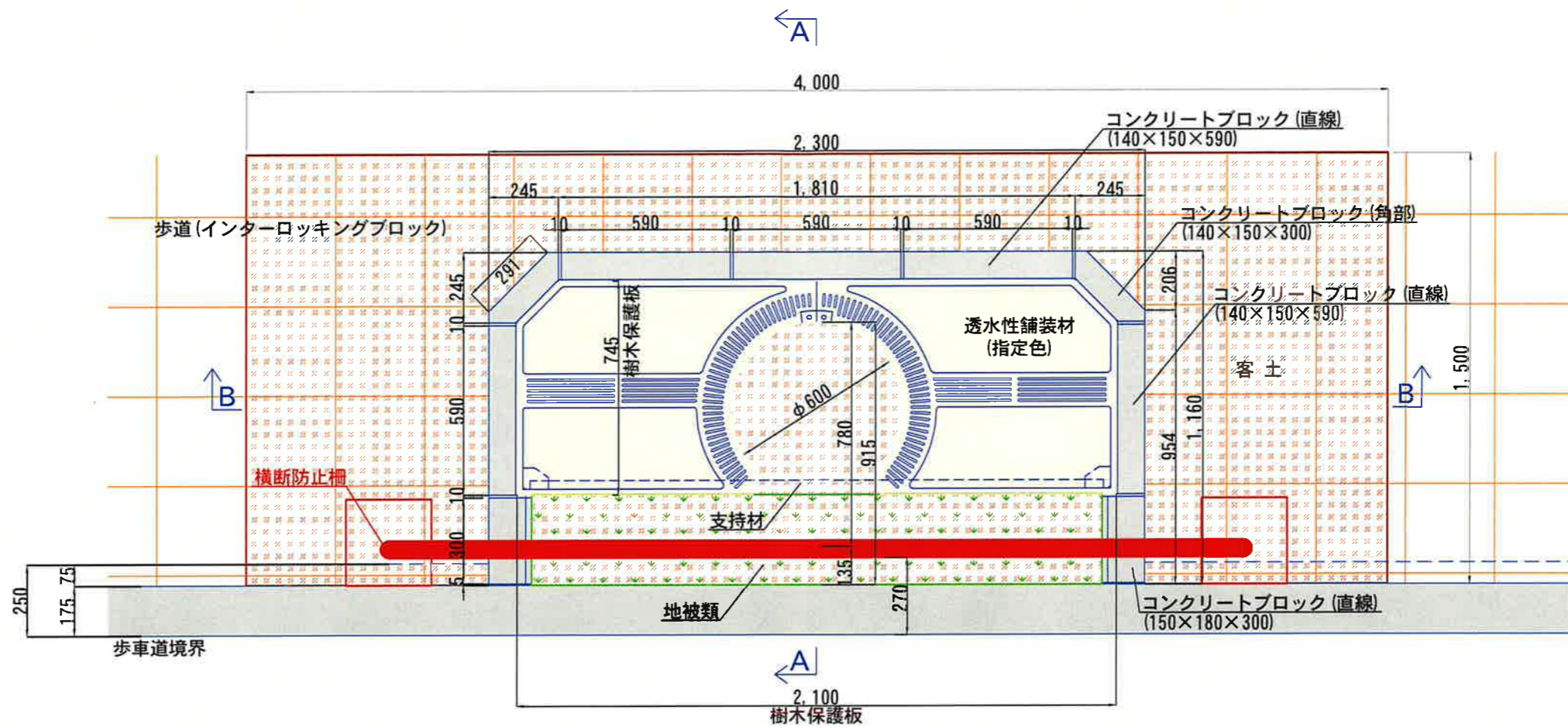


正面図 (B-B)

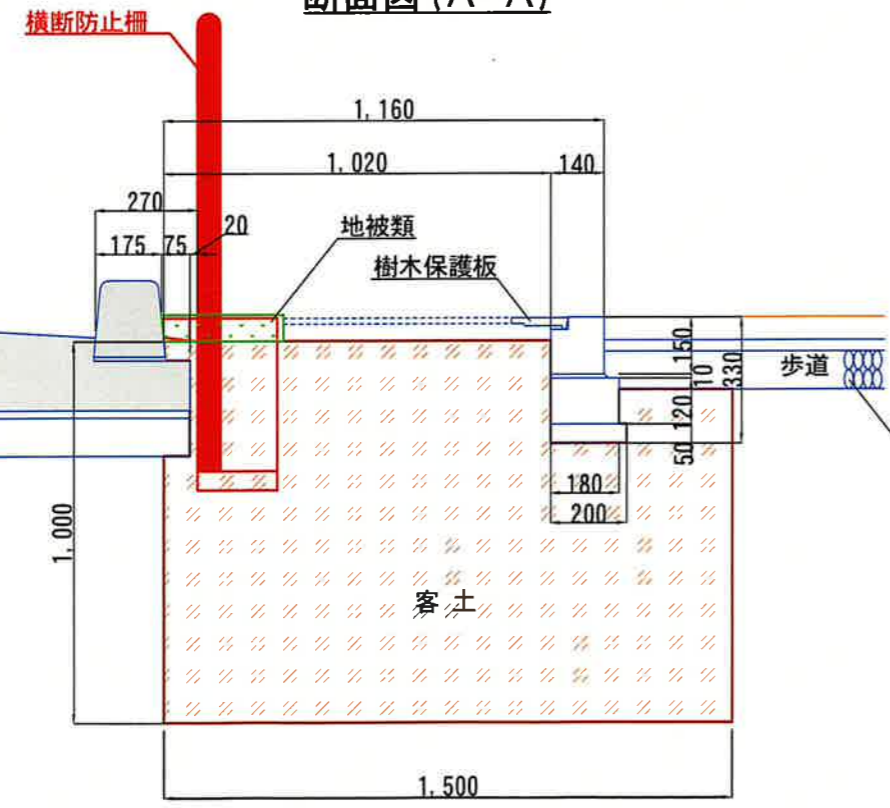


植樹ます構造図 S=1:20

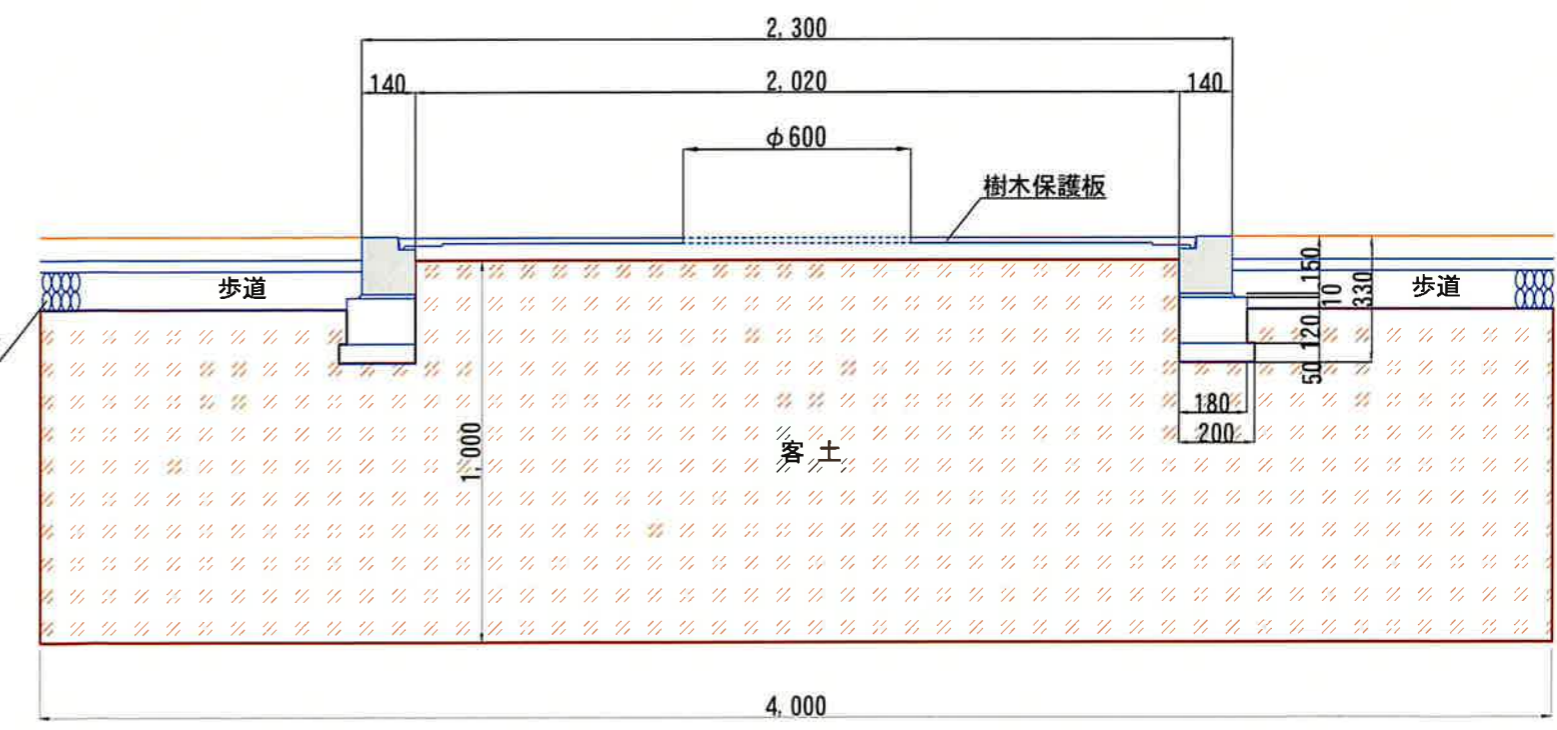
平面図



断面図 (A-A)

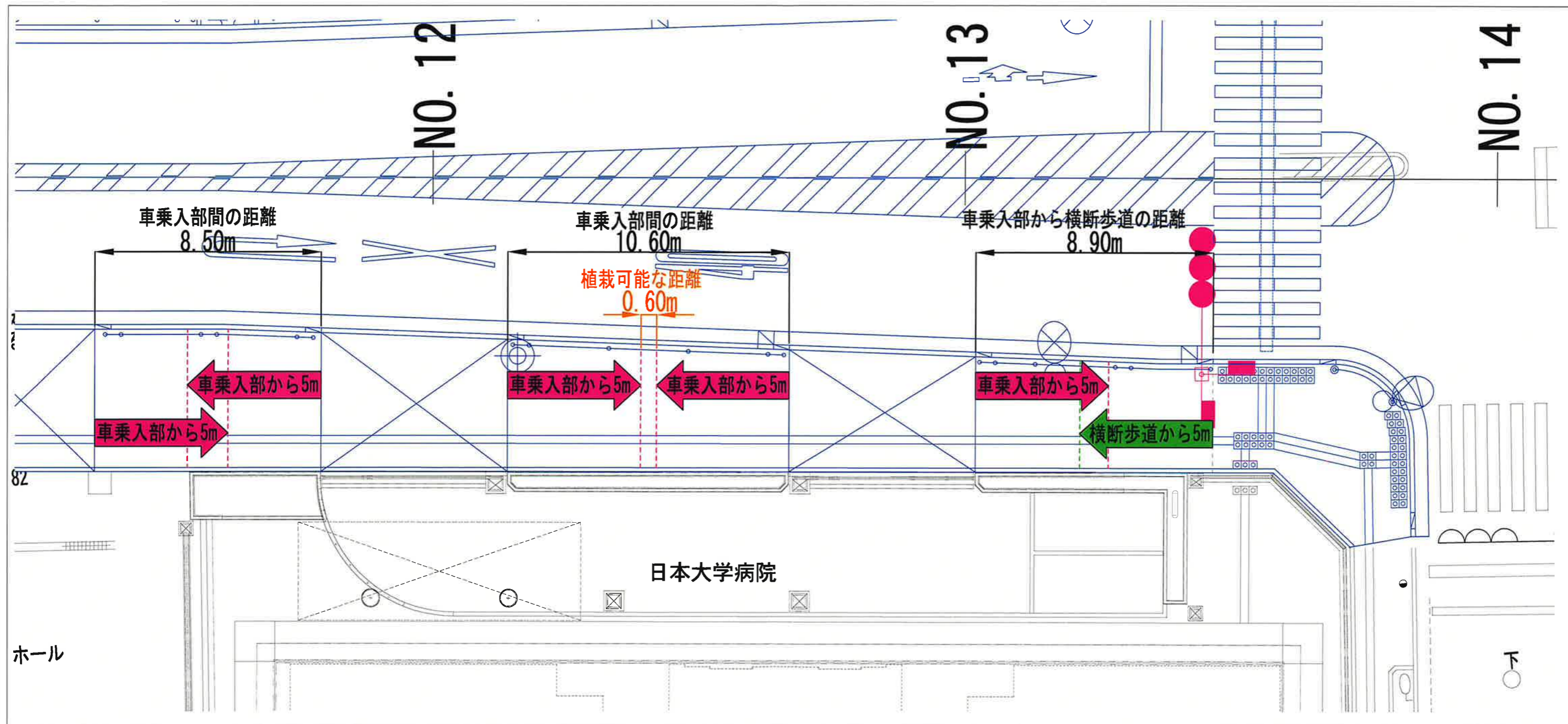


正面図 (B-B)



※既設の車道路盤は、撤去し植栽部分の土壌改良を行う。
 ※歩道の砕石は転圧し、埋設管保護のため、防根シートを使用する。

計画平面図 S=1:150 (A3)
(日本大学病院前)



街路樹の設置が認められない範囲 (警視庁指示)

- ・ 車乗入部の前後5m
- ・ 自動車の進行方向に対して、横断歩道から手前10m、奥5m

構造物凡例

凡例	工種名
—●—	横断防止柵
●—●	ガードパイプ (Gp-Cp)
⊗	車道照明 (単路部用)
⊗	車道照明 (交差点用)
⊕	歩道照明

凡例

—	現況
—	計画

信号機凡例

車道信号	歩行者用信号
●●●	■

落葉排水対策 比較表

	第1案：二連集水ます	第2案：冠水防止縁塊
製品写真		    <p>落ち葉やゴミが目詰まりしても安定した排水能力を維持します。</p> <p>新聞や雑誌等がグレーチング上に張り付いても、縁石部の排水孔から排水できます。</p>
特徴	集水柵を2箇所並べ、開口部を増やすことで閉塞を防ぐ。急勾配箇所の越流も防ぐことが可能。	通常の開口部に加え、側面部からの排水が可能。
メリット	開口部が広いので越流対策の効果が期待できる。一般的な構造であり管理は容易である。	落ち葉以外の閉塞物に対しても、側面からの排水可能であり、閉塞する可能性が最も低い。155SF型は、背面から歩道部の排水が可能である。
デメリット	ビニール袋など平面的な閉塞物には対応不可。開口部が広いので下水臭の苦情がある。集水柵を1箇所追加で設置する必要がある。清掃を2箇所分行なう必要がある。	1箇所当たりの単価が高い。取替えの場合、縁塊ごと交換する必要がある。
経済性 (材工のみ)	44,650円/箇所(追加分)	73,900円/箇所

駿河台道灌道付近横断歩道について

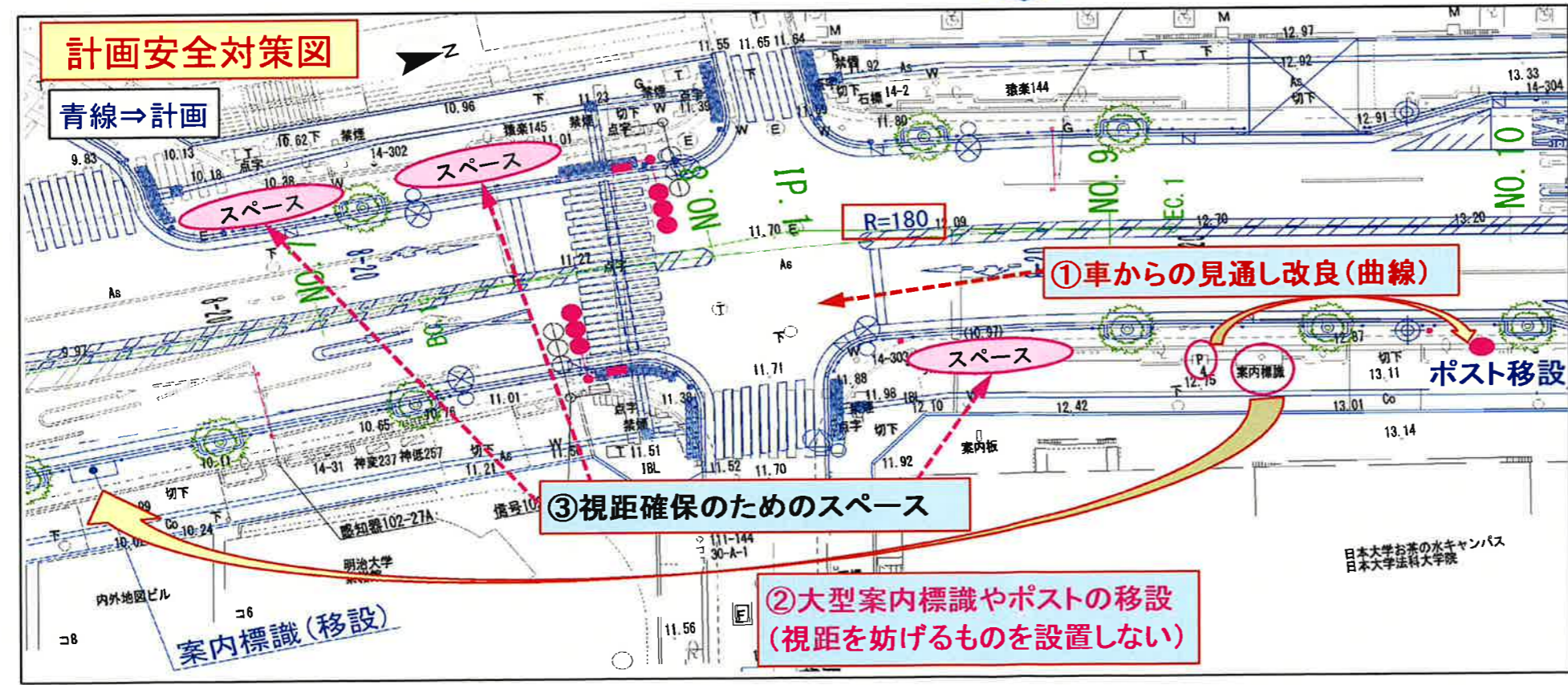
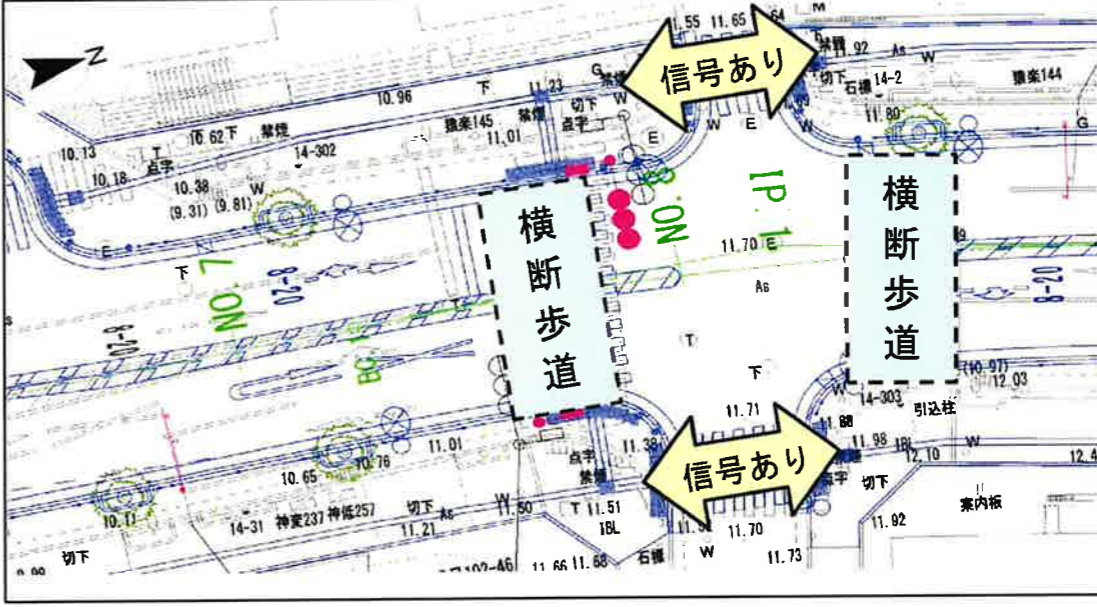
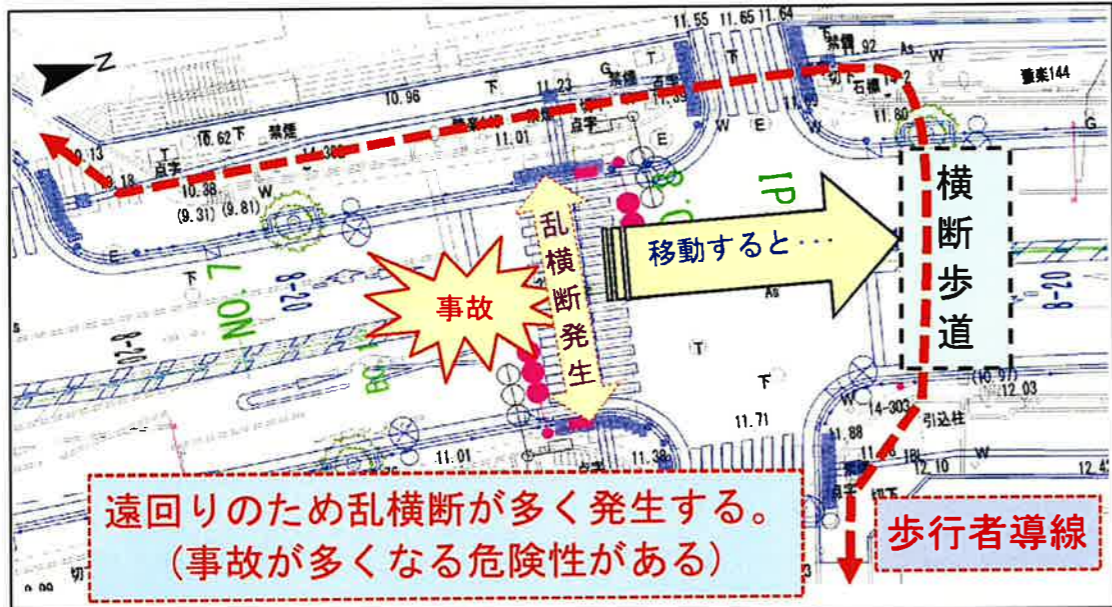
H28. 2の駿河台まちづくり協議会にて、駿河台道灌道付近の横断歩道について追加設置・位置変更の要望がありましたが、安全上の理由から現在とほぼ同じ位置としました。

ケース1 <横断歩道をお茶の水側へ移設した場合>

- 富士見坂や駿河台道灌道からの導線から外れてしまうため、乱横断する人が多くなり、危険である。
- 歩行者が乱横断した場合、車から確認しにくい。

ケース2 <横断歩道を追加した場合>→交差点化

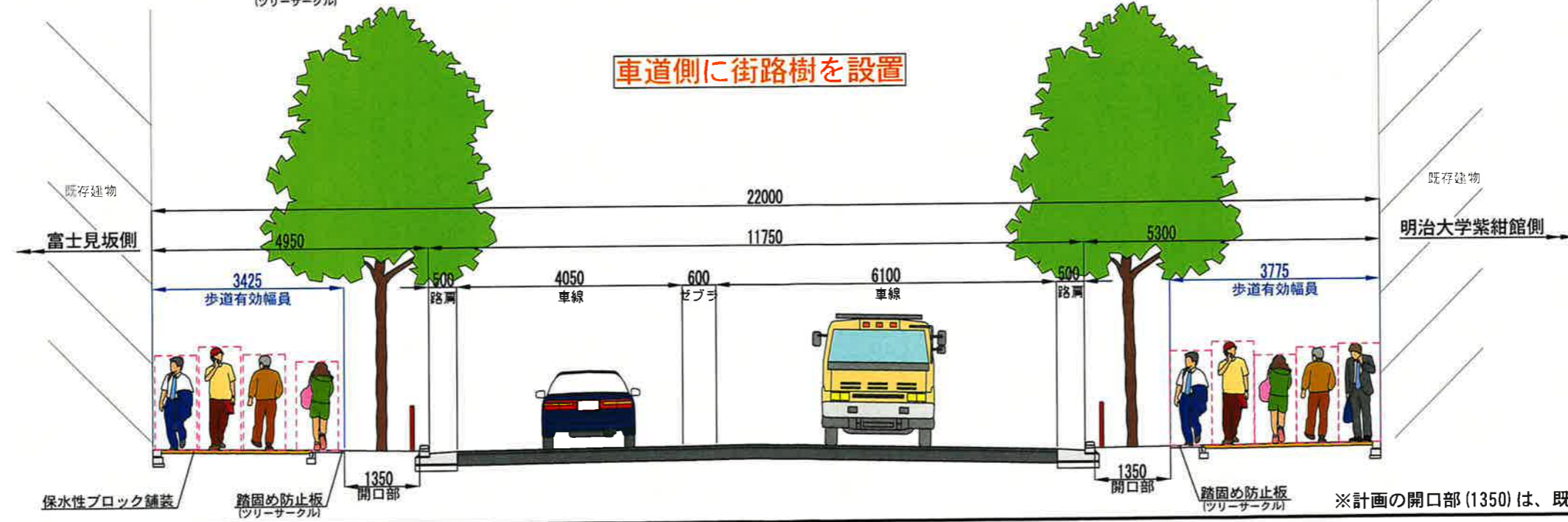
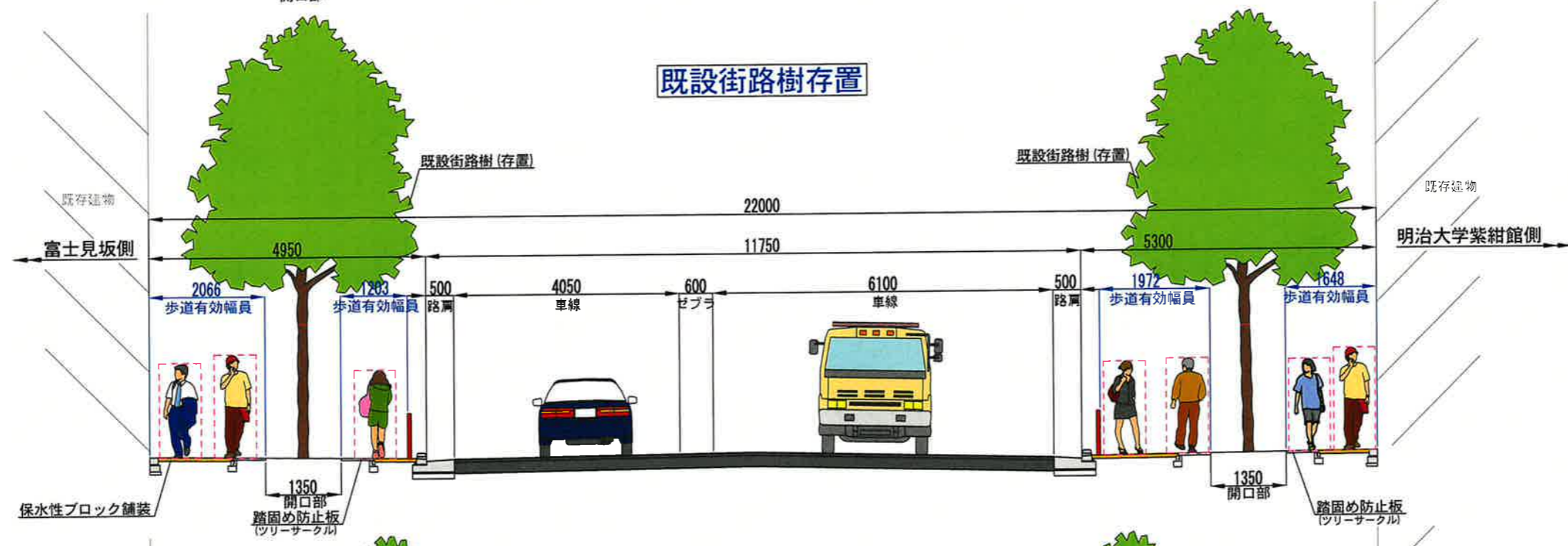
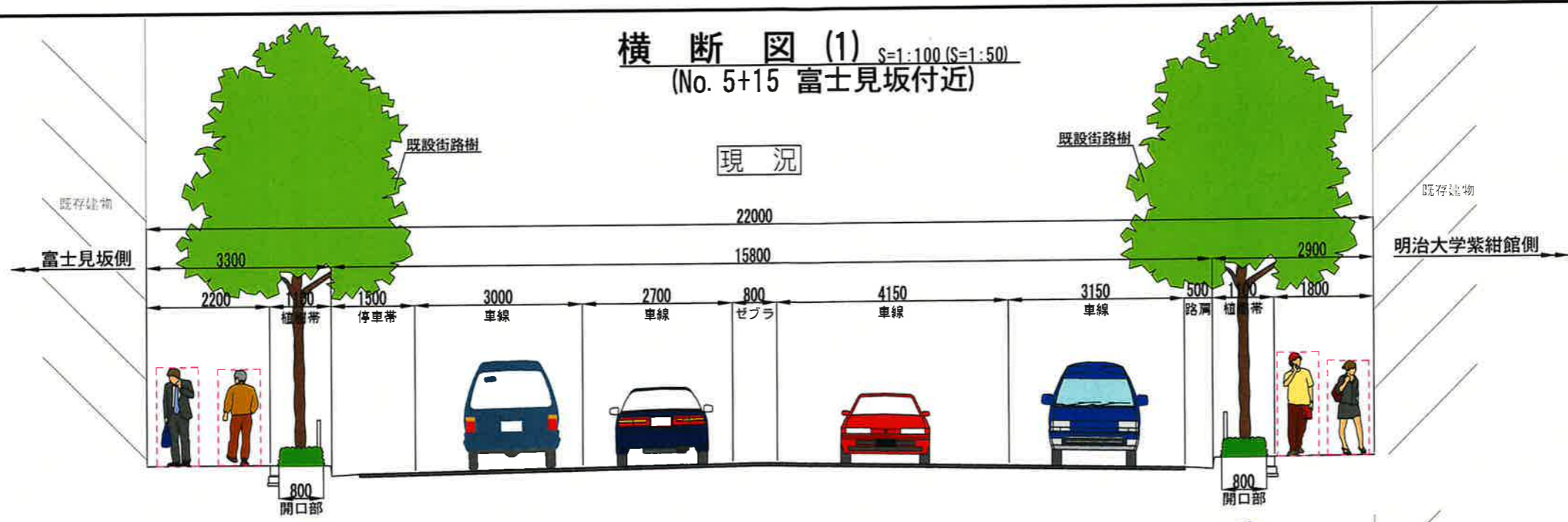
- 取付道路の交通量が少なく信号交差点にする必要性が低い。
- 隣の交差点との距離が短く、渋滞が発生する可能性がある。
- 駿河台下⇄お茶の水方向の歩行者の信号無視が懸念される。



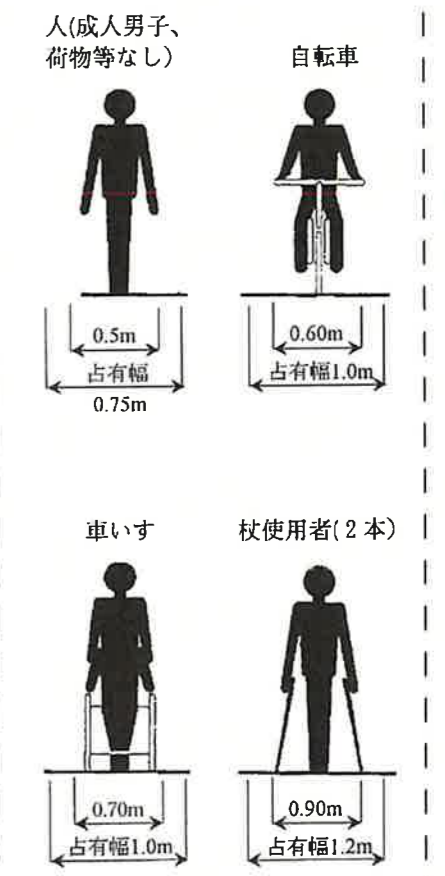
<計画の安全対策>

- ①車からの見通しの改良(曲線を入れる)。
- ②標識、ポスト等を移設し視距を改良。
- ③視距確保のためのスペース

横断図 (1) S=1:100 (S=1:50)
(No. 5+15 富士見坂付近)



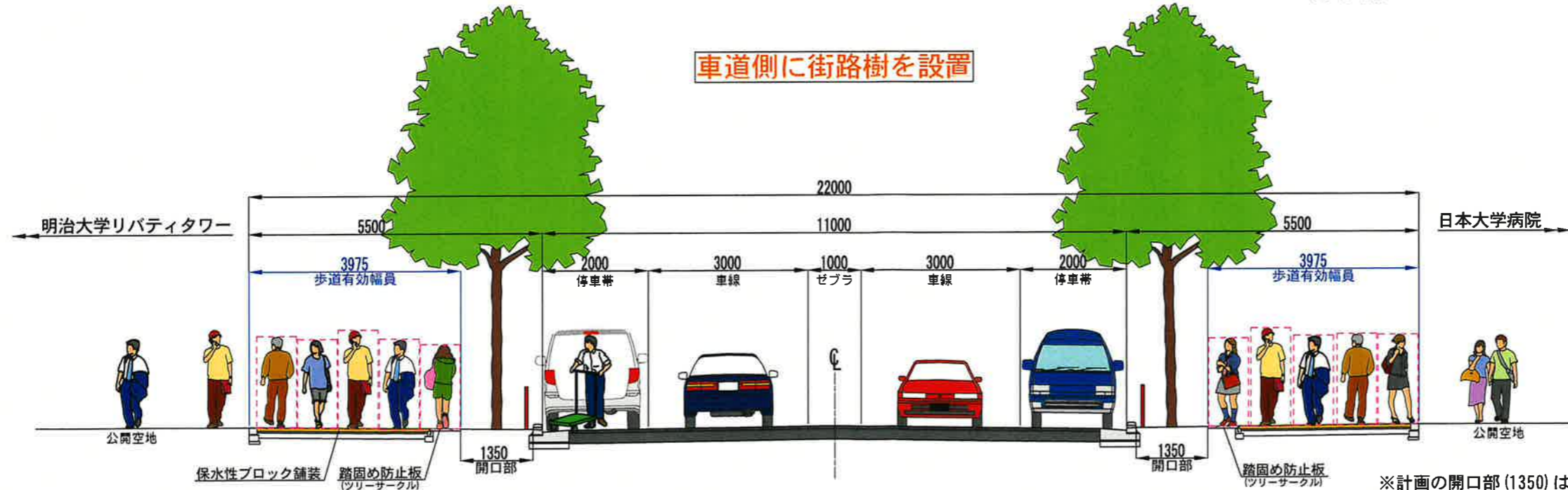
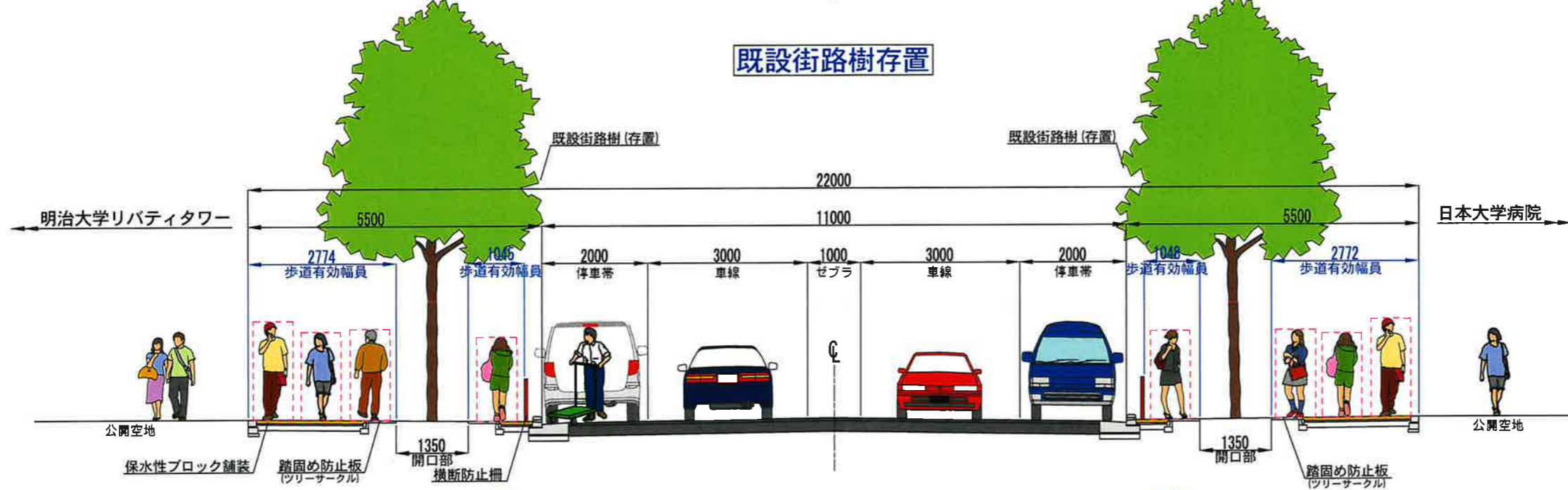
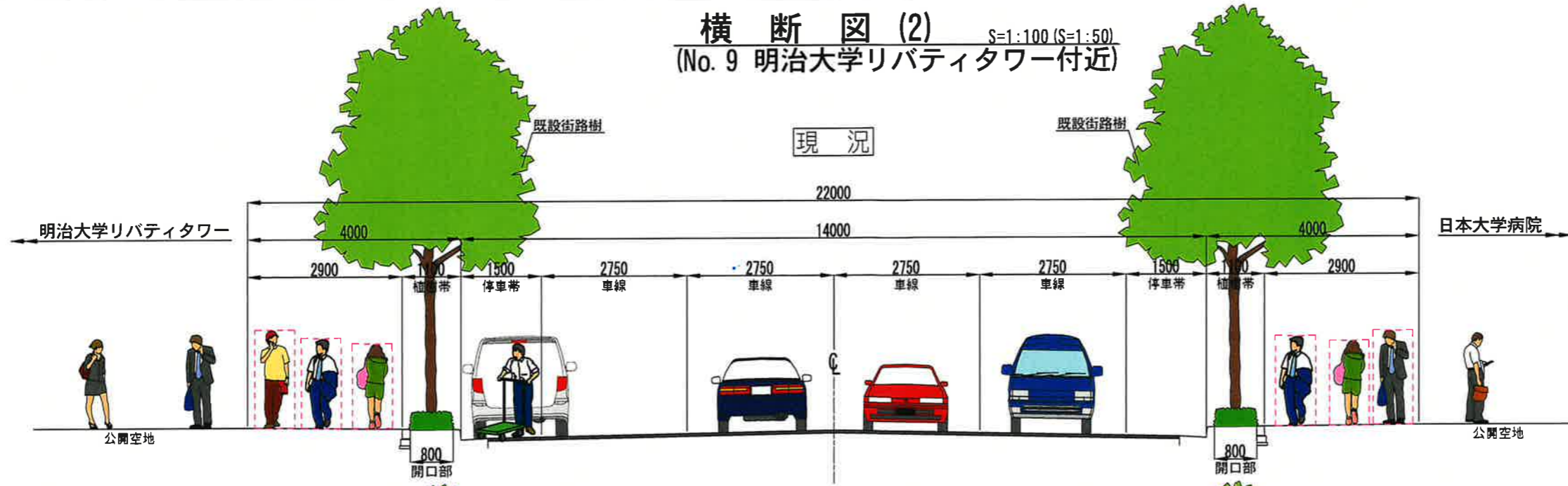
道路利用者の基本的な寸法



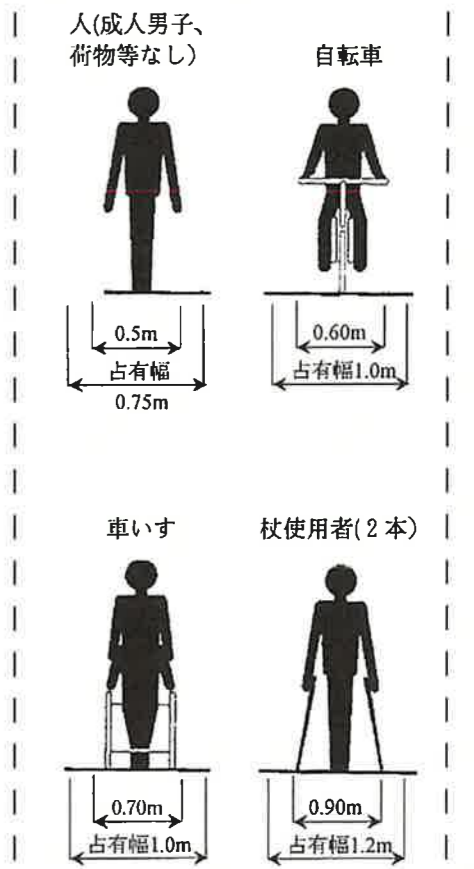
※道路構造令の解説と運用P175より

※計画の開口部(1350)は、既設街路樹の生長を考慮した大きさとしている。

横断図 (2) S=1:100 (S=1:50)
(No. 9 明治大学リパティタワー付近)



道路利用者の基本的な寸法



※道路構造令の解説と運用P175より

※計画の開口部(1350)は、既設街路樹の生長を考慮した大きさとしている。

バス停留所移設図

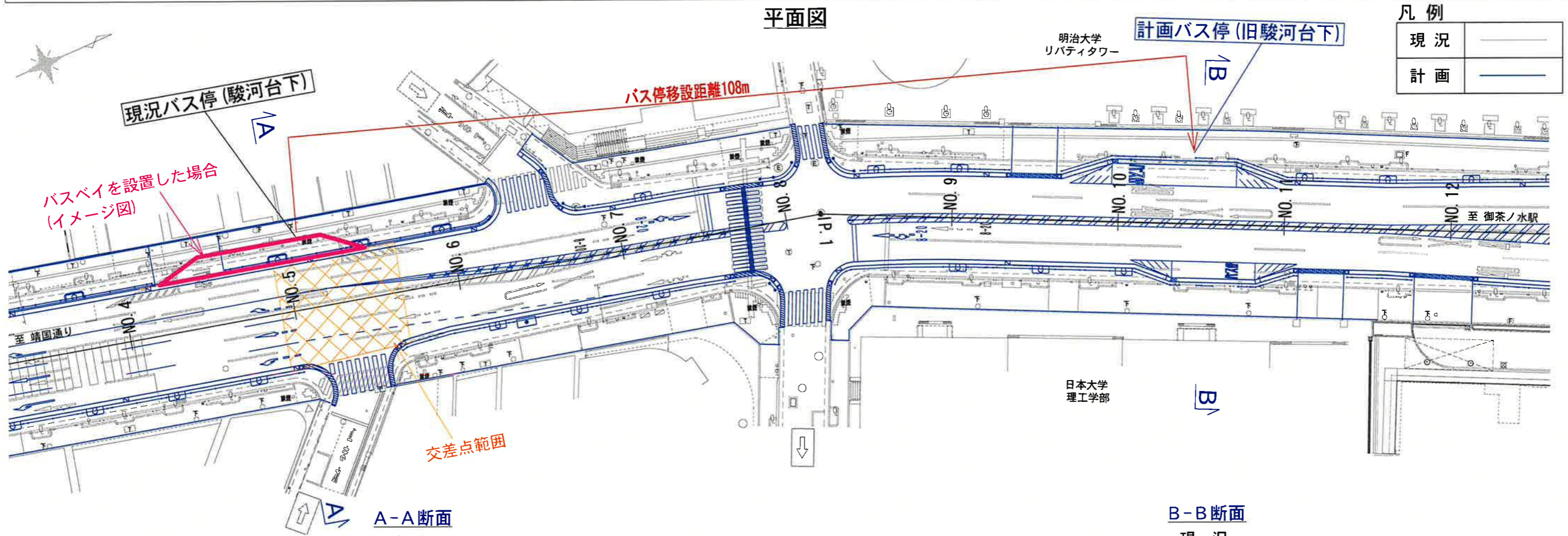
バス停の移設及びバスベイ設置の経緯

現在のバス停位置（駿河台下）は、交差点範囲内に該当することから、既存不適格であると警視庁より指導を受けており、原則、道路整備の際に移設することが求められている。しかし、地元の要望があれば現在の位置で整備することも認められるが、後続車による渋滞の恐れやバスを追い越す車両が反対車線へ出ることにより事故につながる恐れがあることから、バスベイの設置は必須とのことであった。

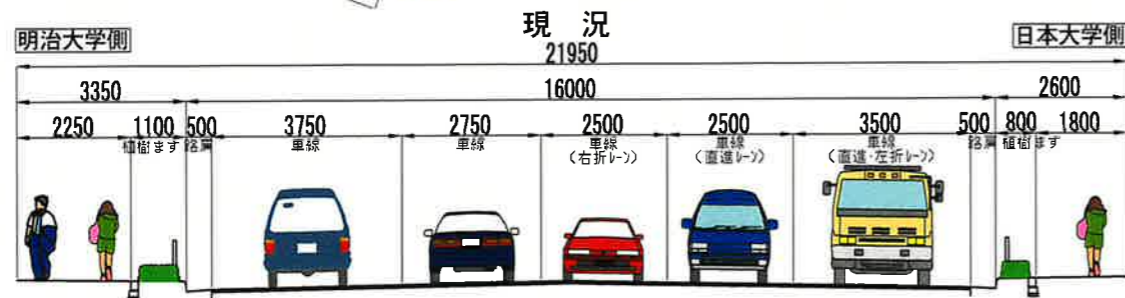
バスベイの設置については、歩道の有効幅員を考慮した上で設置を行うことになるが、既存の位置では歩道有効幅員2.0mを下回ることから、道路構造令に準拠しない構造となり、車椅子のすれ違いが出来なくなることが確認された。

上記の理由から、現在の位置からバス停を移設する必要があると判断し、歩道の有効幅員やバス停の間隔などを考慮し検討した結果、歩道幅員も広く公開空地もある明治大学リパティタワー前であれば、バスベイを設置しても歩行者、車両双方に問題無いと考え、移設先とした選定した。

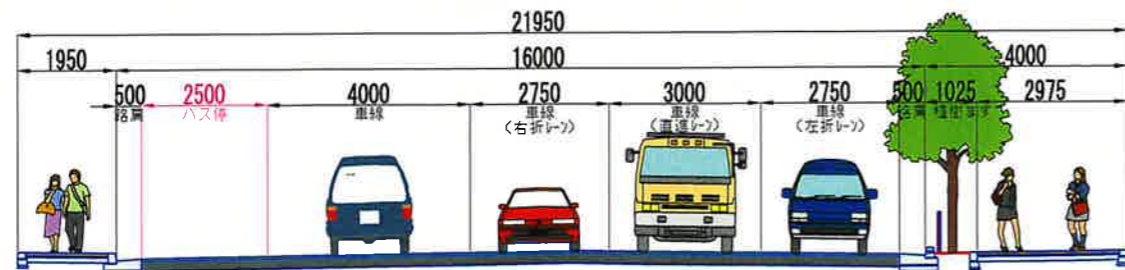
平面図



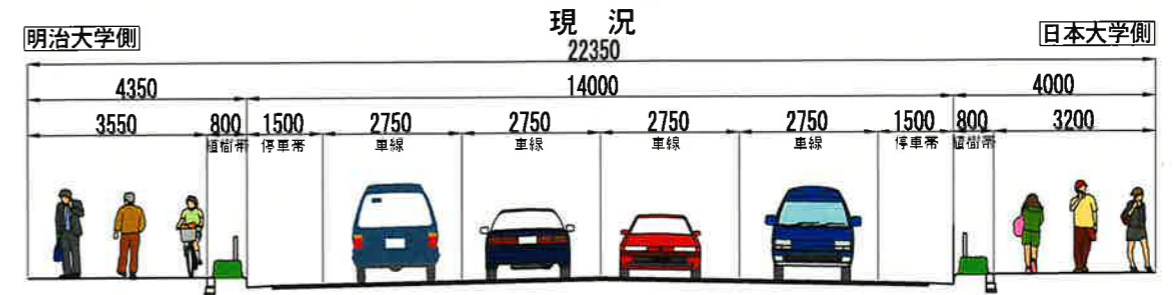
A-A断面



バスベイを設置した場合 (イメージ図)



B-B断面



計画

